

## ウシモツゴの里帰りについて

東海大学(教養学部 人間環境学科 自然環境課程)北野教授の研究室で保護しているウシモツゴを犬山市に里帰りをさせる。

### ■ウシモツゴと犬山市のウシモツゴの経緯

ウシモツゴは、環境省レッドデータブックでは絶滅危惧ⅠA類に分類される淡水魚  
ため池に生息し、愛知、岐阜、三重に分布、県内は5か所のため池で生息

犬山市においては、1995年(平成7年)ごろ、市内では絶滅したとされていたウシモツゴが宮裏池、宮裏二ツ池で発見された。2001年(平成13年)ごろから生息地の環境が悪化、絶滅が危惧され、保護対策として生息域外保全(以下「域外保全」)が始まった。

2003年(平成14年) 東山動物園で域外保全(のちに中断)

2004年(平成16年) 財団法人日本モンキーセンターで域外保全(2024年継続中)

2007年(平成19年) 東海大学北野研究室での域外保全(2024年継続中)

その後、宮裏池、宮裏二ツ池ウシモツゴは絶滅

### ■里帰りの目標と内容

ウシモツゴが将来的に再び犬山市のため池で生息していくことを目指す。(域外保全は野生復帰の手段のひとつであるため。)

現在の犬山市のため池では野生復帰をさせる環境は整っていない。

野生復帰の段階的な手段のひとつとして市内の企業等にウシモツゴの里親として飼育してもらう。

生息環境が整ったため池に里親に育てられたウシモツゴを野生復帰させる。

※里帰りが実現すれば、17年ぶりに帰ってくることになる。

2007年→2024年

### ■目的

ウシモツゴの里帰りを実施、PR

→ 生物保護、生物の多様性、外来種対策の啓発、自然環境を守る、地球の環境を守る啓発

→ 地球温暖化問題(気候変動適応対策、地球温暖化対策)への市民の意識、行動がステップアップ

### ■飼育(里親)の条件

水槽または池等(貯水槽も可)を所有

飼育するための道具、エサは里親の負担

飼育過程において、ウシモツゴが死滅した場合、里親に責任はなく、再びウシモツゴを東海大学から受け入れることができる。

里親の事情により中断することができる。

受け入れたウシモツゴは他の場所へ移動はさせない。

### ■里親企業 関心を示す企業がある

## 参考

### ■犬山市のウシモツゴ生息経過

1995 年(平成 7 年)ごろ 犬山市では絶滅したと思われたウシモツゴが宮裏池、宮裏二ツ池で発見

2001 年(平成 13 年) ウシモツゴが発見された原生息地の環境が悪化(水質の悪化、外来種の放流、愛好家による過剰採取など)、同時期から保全対策が議論され、ウシモツゴの保護対策が始まる。(おさかなレスキュー(池干し)、市内他所での保護)

2003 年(平成 14 年) 東山動物園への系統保存依頼→中断

2003 年(平成 14 年)～2020 年(令和 2 年)

おさかなレスキュー(池干し・外来種駆除事業)の実施 ため池 30 か所

2004 年(平成 16 年) 財団法人日本モンキーセンターとの保護協力→2024 年継続中

2005 年(平成 17 年)ごろ 宮裏池、宮裏二ツ池のウシモツゴが絶滅(野生絶滅:県レッドデータ)

2007 年(平成 19 年) 東海大学北野教授の研究室で域外保全が開始→2024 年継続中

2024 年(令和 6 年) 域外保全は継続中

### ■ウシモツゴについて

ため池に生息する体長5～8cm程度の淡水魚

環境省レッドデータブックでは絶滅危惧ⅠA類

愛知県では条例に基づく指定希少野生動植物種に指定

愛知県、岐阜県、三重県に分布(伊勢湾周辺の固有亜種)

県内では 5 か所(長久手市、日進市、豊田市、西尾市(野生絶滅)、犬山市(野生絶滅))

### ■カテゴリーの概要(環境省 HP)

|                     |                                                |                            |
|---------------------|------------------------------------------------|----------------------------|
| 絶滅 (EX)             | 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種                            | ニホンオオカミ                    |
| 野生絶滅 (EW)           | 飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種      |                            |
| 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)      | 絶滅の危機に瀕している種                                   |                            |
| 絶滅危惧ⅠA類(CR)         | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの                   | ウシモツゴ、イリオモテヤマネコ、トキ、ヤンバルクイナ |
| 絶滅危惧ⅠB類(EN)         | ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの             | ネコギギ、アカウミガメ、ライチョウ          |
| 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)         | 絶滅の危険が増大している種                                  | ギフチョウ、オオサンショウウオ            |
| 準絶滅危惧 (NT)          | 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 |                            |
| 情報不足(DD)            | 評価するだけの情報が不足している種                              |                            |
| 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) | 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの                     |                            |